

江藤淳と「私」
—江藤淳の生涯を旅する—

下巻

青木 良和

青山ライフ出版

第五章

江藤淳と歴史の形

1 江藤淳の歴史評伝と私が愛した歴史作家	12
2 『海舟余波』	23
(1) 幕末という時代	23
(2) 江戸幕府における武家の体制	29
(3) 勝海舟の登場	32
(4) 尊王攘夷思想	38
(5) 咸臨丸後の勝海舟	42
(6) 江藤淳『海舟余波』	51
● 鳥羽伏見の戦いの敗北	54
● 陸軍総裁・勝海舟	58
● 德川処置7か条と勝海舟・西郷隆盛会見	62
● 德川最終処分案の決定と西郷の失脚	66
● 勝海舟の「継ぎ剥ぎ細工」	70
● 福沢諭吉「瘦せ我慢の説」	72
● 「国民国家」の創出	76

第六章

『海は甦る』と『昭和の宰相たち』

I 山本権兵衛と明治の精神

1 江藤淳の血筋と海軍	88	88	87	82	80
2 「明治」という国家 —国民国家の創出—	88	88	87	82	80
3 明治政府の体制	90	90	89	84	82
4 山本権兵衛と海軍	95	95	94	89	87
5 海軍大臣 山本権兵衛	103	103	102	97	95
6 明治天皇崩御と山本権兵衛内閣の成立	113	113	112	107	105
7 シーメンス事件	132	132	131	126	124
	144	144	143	138	136

II 『昭和の宰相たち』

1 原敬内閣（政友会）（1918.9～1921.11）、高橋是清内閣（政友会） （1921.11～1922.6）	157
2 第一次若槻禮次郎内閣（憲政会）（1926.9～1927.4）	...
3 田中義一内閣（政友会）（1927.4～1929.7）	...
4 濱口雄幸内閣（立憲民政党）（1929.7～1931.4）	...
5 第二次若槻禮次郎内閣（立憲民政党）（1931.4～1931.12）	...
6 「閉された言語空間——占領軍の検閲と戦後日本」（1989年）	177
7 その後の政治談議	177
8 加藤典明の仕事	177
237 233 224 217 201 191 186 178	152

最後に

258

あとがき

260

上巻◎目次

第一章 江藤淳

江藤淳の死

佐賀人 江藤淳

祖父側の曾祖父 江頭嘉蔵

幕末佐賀藩の開明性と保守性の矛盾

祖母方の曾祖父 古賀喜三郎

祖父 江頭安太郎

もう一人の祖父 宮治民三郎

祖母 米子

母 廣子

父 隆

江藤淳の少年時代
慶應義塾大学入学まで

第二章 夏目漱石

2 1 夏目漱石との出会い
江藤淳の出発 「夏目漱石論」

第三章

『アメリカと私』

- 1 文芸評論家としてのスター人生
2 60年安保闘争と江藤淳
3 3 戦後左翼学生運動の解体
4 4 戰後左翼学生運動の解体
5 5 「夏田漱石」から「小林秀雄」まで
6 6 ロックフェラー財団によるアメリカ留学
(1) 「創作フェロー・シップ」(Creative Fellowship)」プログラム
(2) ロックフェラー邸の恩ご出
(3) ロックフェラー財团留学生
(4) 福田恒存「坐り心地の悪い椅子」と大岡昇平「ザルツブルグの小枝」
(5) 安岡章太郎「アメリカ感情旅行」
(6) 庄野潤二「ガノビア滞在記」「シヨウ一廻り楓の葉」
(7) 小島信夫「異郷の道化師」、阿川弘之「カリヲルニア」、有吉佐和子「非色」
7 江藤淳のアメリカ留学
8 妻鏡子さんとの葛藤
9 未完成に終わった『漱石とその時代』
- 3 『漱石とその時代』
4 漱石の家系について
5 漱石の英國留学 漢学と西洋文學
6 ラファエル前派との邂逅
7 小説家としての漱石
8 妻鏡子さんとの葛藤
9 未完成に終わった『漱石とその時代』

●アーハベヌ

●American way of life

●アーハベヌンドの生活

●苦つむアメリカ社会（1）

●Ellis Island

●苦つむアメリカ社会（2）

●江藤さんが発見したもの

第四章

『成熟と喪失』

- 1 様々な戦争体験と戦後
- 2 「第三の新人」たちの戦争体験
- 3 受験失敗と病
- 4 様々な世代
- 5 『成熟と喪失』 ところの考え方
- 6 安岡章太郎
（1）「海辺の光景」
（2）安岡章太郎の生涯
- 7 遠藤周作
（1）「沈黙」
（2）遠藤周作と母
（3）遠藤周作の生涯
- 8 手行導入介
（1）「星と円は天の穴」

- (2) 吉行淳之介の父母と宮城まり子
(3) 吉行淳之介の小説世界

9 庄野潤三

- (1) 「ブールサイド小景」「静物」「タベの雲」
(2) 庄野潤三の父性

10 小島信夫

- (1) 「抱擁家族」の世界
(2) 小島信夫の生涯
(3) 家族の崩壊
『成熟と喪失』について

11